

松戸市、鹿沼市へ行政視察



新しい介護予防について説明する松戸市の改革担当職員(右)

新しい介護予防は 介護保険制度改革担当に聞く

【松戸市】

全高齢者を対象にした
「介護予防事業」と要支援

者などを対象とした「新しい介護予防・日常生活支援総合事業」

富士見町議会は8月17日、18日の両日、全議員が参加する行政視察を行いました。今回のテーマは、千葉県松戸市が「新しい介護予防・日常生活支援総合事業」、栃木県鹿沼市は「まちの駅 新鹿沼宿」です。

まちの駅 新鹿沼宿



鹿沼市の中心市街地にある「まちの駅 新・鹿沼宿」を視察

【鹿沼市】

5年目で売り上げは4億円

ました。

2025年には「団塊の世代」が75歳に入ります。

国の制度の方向性を分析し、「地域支援事業」で、地域実情に応じた必要な支援体制を作りました。

課題を解決する手段として「自助」「互助」「互助」に分け、不足している

ものは何かも明らかにし、

市民の総合力を引き出す

「地域支援事業」をスタートさせ、「松戸WAY」として強力なリーダーの元、先進的に取り組んでいる状況を学んできました。

(名取委員長報告
要約小林市子)

鹿沼市は、ジャスコが撤退した跡地に「まちの駅 新鹿沼宿」を建設しました。公設民営の観光交流施設で、経営は民間の運営協議会が行っています。当初は「道の駅」の建設を検討しましたが、周囲が住宅地のため、トイレや駐車場の利用を24時間受け入れる「道の駅」は断念し、夜間は閉鎖する「まちの駅」を選択しました。

敷地内には、そば店や、野菜・特産品の直売所である物産館があります。市は、そば店、物産館、軽食コーナーの3施設から占有使用料を徴収しています。売上額の1%が市に入ります。オープンから5周年となる昨年度の売上額は当初の予想を大きく上回る約4億円でした。その7割が物産館の売り上げです。主に、地元の女性客が新鮮野菜を買い求めています。県外客は11%にとどまります。「新鹿沼宿」のにぎわいは、おもてなしの心を大切にする経営姿勢がリピーターを集め、地域に愛される施設になっていると感じました。(川合弘人)